

「学び続ける社会の実現」に向けた 大学におけるリ・スキリングの充実について

背景

- 大学等によるリ・スキリングについては、骨太2024を踏まえ、「リカレント教育エコシステム構築支援事業」（令和6年度補正予算）を推進中。地方創生や産業成長のため、**骨太2025や新資本2025（産業人材育成プラン）**においても引き続きの求めあり。
- **地方創生等の観点**では、**地方の経営者**に加え、アドバンスト・エッセンシャルワーカー、就職氷河期世代等の幅広い労働者のリ・スキリングのニーズが指摘（新資本2025、地方創生2.0基本構想施策集、就職氷河期世代等支援に関する関係閣僚会議）。
- **産業成長の観点**では、産業構造審議会部会で示された**2040年に向けたシナリオ集**において、人口減少等の将来像を踏まえた、主要5ミッション、15の個別産業が提示。「リカレント教育による新時代の産学協働体制構築に向けた調査研究事業」では、大学等の優位性と企業ニーズが認められる12領域が提示。これらも踏まえ、生産性向上や労働移動の円滑化も見据えた、**戦略的な分野の選定**が必要。
- この他、**受講者の処遇改善、大学による収益化等**の推進も不可欠



解決策

- ① 地域のニーズや産業構造の変化の見通し等も踏まえた、**リ・スキリング・プログラムの戦略的拡充**
- ② 企業における**学びの成果の処遇反映に向けた仕組み構築**
- ③ 大学等における**収益化の推進**

事業内容

リ・スキリングプログラムの本格実施 企業からの投資を含む収益モデルの構築

- **大学におけるリ・スキリング講座の開発** 補助金18.6億円

メニュー	①地方創生	②産業成長
予算	4千万円×25カ所	4千万円×22カ所
補助対象	産学官金等の連携を行う地方自治体・大学等 【領域例】 GX, SCM, DX, 半導体、経営等	産学連携を行う大学等 【領域例】 GX, SCM, DX, 半導体、経営等

※協働体制構築経費、産学官連携コーディネーター等の人件費等

- **伴走支援等** 委託費3.6億円

- ・採択大学への伴走支援（企業等からの投資を含む収益化の推進等）
- ・企業のスキルセット構築
- ・「学び直しが当たり前の社会」を目指す広報等

重点的に実施する事項

公募の際、厳格に評価しメリハリ付け

- **現下の課題に選択的に対応**

個人	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバンスト・エッセンシャルワーカー育成 ・就職氷河期世代支援 ・参加しやすいオンラインプログラム構築
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの可視化や正当な評価による処遇改善 ・産業構造審議会などで示される新たな人材需要への対応
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的経営改革 <ul style="list-style-type: none"> ✓教員のインセンティブ向上 ✓事務体制強化 ✓修士課程への接続等

- **企業からの投資を含む収益計画の確認**

目指す状態

産学官連携によるリ・スキリング・エコシステムの構築

個人	<ul style="list-style-type: none"> ・働きながら学ぶ社会人の増加 ・リ・スキリングによる処遇改善
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・リ・スキリングを積極的に活用し、輩出した人材が活躍
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・リ・スキリングプログラムの収益化、定着 ・コーディネーター人材の育成、確保

リ・スキリングによる



KPI【地方創生】 累積 **1,000人** ※令和7年度終了時

KPI【産業成長】 累積 **3,000人** ※令和7年度終了時

累積 **2,000人** ※令和8年度終了時

累積 **6,000人** ※令和8年度終了時

累積 **5,000人** ※令和11年度終了時

累積 **15,000人** ※令和11年度終了時

経済財政運営と改革の基本方針2025

・産学協働によるリ・スキリングプログラムについて、**毎年約3,000人が修得**できるよう、提供拠点・プログラムを拡充する。

就職氷河期世代等支援に関する関係閣僚会議 「新たな就職氷河期世代等支援プログラムの基本的な枠組みについて」

・大学・専門学校において、就職氷河期世代等に対し、企業が**受講者の処遇改善にコミットした講座や資格取得など処遇改善につながる講座**を、働きながら受講しやすい週末・夜間等を含めて拡充

新しい資本主義 実行基本計画 2025

・労働者のリ・スキリングによる**最先端の知識・技能の修得（2029年まで毎年約3,000人以上）**や、**地方の経営者等の能力構築（2029年までに約5,000人）**に向け、大学等が中心となり自治体や産業界等との協働による実践的な教育プログラムの開発を支援する。
・アドバンスト・エッセンシャルワーカー(略)の育成や、**AI等の技術トレンドを踏まえた幅広い労働者のリ・スキリング(略)**を通じ、全国の津々浦々のそれぞれの地域で、労働者個人が、自らの意思に基づき、活躍できる環境を整備する。

産学官が連携したリ・スキリング・エコシステムの構築（全体像）

- 「学び続ける社会」の実現に向けて、政府・自治体、産業界、教育界が強力に連携し、大学、専門学校、訓練機関等を通じたり・スキリングが、個々人のキャリアアップ・処遇向上や企業の成長に確実につながるシステムを構築する。
- 大学が「18歳中心主義」から転換し、「学び続ける社会」の拠点となるよう、社会から求められるリ・スキリングプログラムの開発・提供等に全学的に取り組む大学を重点的に支援する。

1. 人材ニーズの明確化

【文科省、経産省、厚労省、産業界等】

- ・ 需給ギャップの把握
- ・ スキル体系・標準等の整備
- ・ 職業能力評価制度の活用促進
- ・ 効果的な修了証明の在り方の検討

2. リ・スキリングプログラムの開発・提供

【文科省、厚労省、大学・専門学校、研究機関、独法、企業等】

- ・ 企業ニーズ、地域ニーズへの対応
- ・ 17の戦略分野への対応
- ・ プログラムの高度化（博士課程等）
- ・ 全学的体制整備と収益化

4. 企業による採用・処遇の改善

【文科省、経産省、企業の経営層等】

- ・ 人的資本経営の推進（経営戦略と人材戦略の連動）、企業による大学プログラムへの投資
- ・ 生涯にわたるスキル・学習歴の蓄積・活用システムの構築



3. 学習への支援

【文科省、厚労省、経産省、企業の人事担当等】

- ・ 教育訓練給付金等による受講支援
- ・ 各種リスキリング・職業関連情報サイトの連携強化等
- ・ 社会人による奨学金の活用の更なる向上（短期）に向けた検討

5. 全国的な機運醸成

・ 全世代型リ・スキリング国民運動

【2030年に向けたKPI：大学、専門学校等におけるリ・スキリング人口10万人→60万人／年、連携事業所2.1%→10%】

【文部科学省事業におけるKPI：地方創生1000人→5000人／年、産業成長3000人→15000人／年】

※この他、リ・スキリングプログラムを導入している大学数や大学全体の収入に占めるリスキリング関係収入の割合に関するKPIを検討。

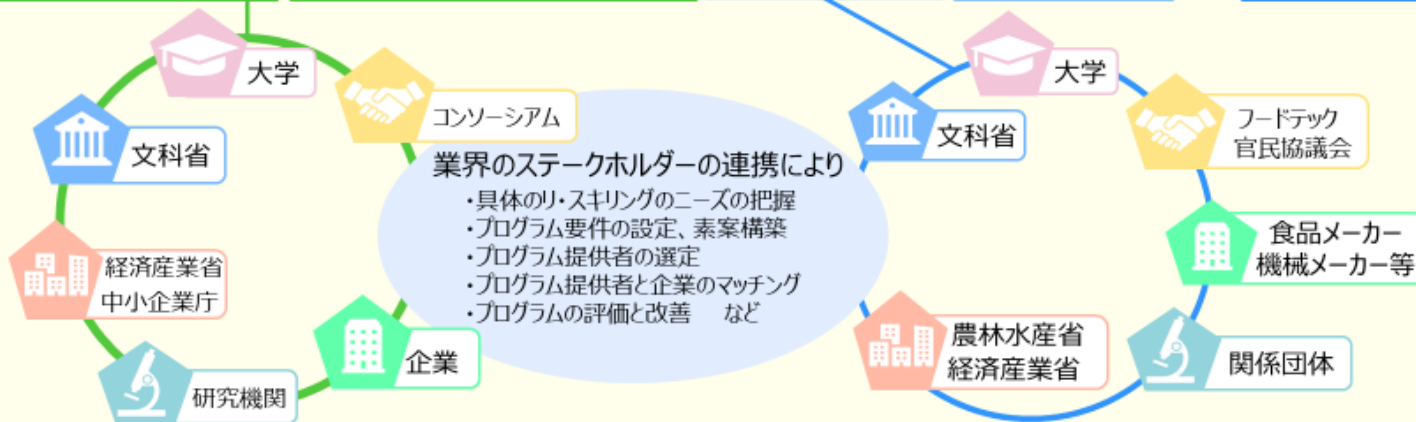
大学等における戦略17分野等のリ・スキリングプログラムの開発プロセス（イメージ）

戦略分野・社会インフラ関連分野の人材育成・確保を推進するための関係府省庁連絡会議

大学等^{*}におけるプログラム開発事業【文部科学省】

17分野+αに関するWGの開催

中小企業AXWG エssenシャルワーカーWG フードテックWG 半導体WG ... ○○WG



※大学、高等専門学校、専門学校等

業所管省庁

- ・担当分野に関する**人材ニーズ**、**人材確保戦略**、**処遇向上**等の検討
- ・**関連企業**や**業界団体**とともにプログラム開発に参画

経済産業省

各産業・職種で求められるスキルを整理した**スキル標準**と連携してプログラムを設計

厚生労働省

開発されたプログラムのうち、一定の基準を満たすものについて、**教育訓練給付金**・**人材開発支援助成金**により受講を支援

リ・スキリングプログラムの開発・実施

大学等が中心となり、ステークホルダーと連携し、社会から必要とされるプログラムを開発・実施

養成される人材の例：各分野（○○WG）のAI実装人材、経営人材 等



大学等のリ・スキリングプログラム開発までの具体的なプロセス

戦略分野・社会インフラ関連分野の人材育成・確保を推進するための関係府省庁連絡会議

政府方針の確認

厚生労働省、文部科学省、経済産業省、業所管省庁との連携

業所管省庁へのヒアリングによる人材ニーズ等の把握

17分野+aに関するWGの開催

文部科学省

大学・高等専門学校・専門学校等

① 大学等の強み・資源の整理

- ✓ 17戦略分野等に関する既存プログラムの整理
- ✓ 大学等の保有設備・人材の確認



② 候補大学等へのアプローチ

- ✓ リ・スキリング拠点候補大学等のピックアップ
- ✓ 文部科学省から有力大学等に対してアプローチ



③ 実施体制の構築

- ✓ 学内体制の整備(部局横断)
- ✓ 企業・業界団体等との連携協定
- ✓ 外部講師・メンターの確保



④ プログラム開発

- ✓ スキル標準に基づく学習目標設定
- ✓ 企業・業界団体等との調整
- ✓ 人材ニーズを踏まえたカリキュラム・学習内容設計



⑤ プログラム実施

- ✓ 受講者の募集・広報
- ✓ 複数コース・レベル展開
- ✓ オンライン・対面の最適組合せ

多様な学習形態

- ✓ オンライン講義
- ✓ 集中講義(短期)
- ✓ 実習・PBL
- ✓ 企業実習・OJT

⑥ 評価と改善

- ✓ 学習成果の評価
- ✓ 受講者・企業の満足度調査
- ✓ 継続的な改善・アップデート



可能な限り今年度内から準備

リ・スキリングによる効果



成長分野への労働移動・キャリアアップ

- ✓ 転職・キャリアチェンジ(成長分野への移動)
- ✓ 社内での配置転換・昇進(社内でのキャリアアップ)



企業・産業の競争力強化

- ✓ 新規事業・イノベーションの創出
- ✓ 生産性向上・付加価値の向上
- ✓ 人材の定着・組織力強化



社会的インパクトの創出

- ✓ 人材不足の解消(重要分野の人材確保)
- ✓ 賃金向上・処遇改善(経済的安定)
- ✓ 地域活性化・持続可能な社会の実現

【目指す姿】

戦略分野・社会インフラ関連分野の持続的な人材育成エコシステムの構築

